

C—4 江戸時代の庶民調度 卓，衣桁，坐臥の類

浅見 雅子

1. 庶民調度は、庶民の経済生活が豊かになった江戸時代になって、はじめて数多く作られたものであり、日常生活を豊かにしたのである。

現在、われわれが使う道具類に多く影響を与えたであろうと思われる江戸時代の庶民調度が、どんなものであり、そして、それらが、実際に生活の中でどのように使われていたかを明らかにしたいと思う。

2. 江戸時代、江戸（東京）は度び重なる火災で焼けてしまったので、調度類の実物はほとんど残っていない。また、上方（京都）にあっても、現存するものは少ない。筆者は昨年京都を中心に、実物を探したが、時代考証の可能なものをみつけることはできなかった。そのため、庶民の生活をよく表わしていると考えられる「絵本」を中心として生活場面を求め、その考証として、随筆、小説（西鶴）から具体的なものを導くことにした。

3. 卓，衣桁，坐臥の類のそれぞれの形，大きさ，材質については、現在使われているものとほぼ同じであるが、使われ方が多少異なる。衣桁が小袖を飾る道具であったりするのは、庶民生活が、精神的，経済的に余裕を持ち、生活の中に美的なものを求めはじめていることがわかると共に、手拭掛等のように容易に自分の好みを、とり入れられる小さな調度に、趣味的なものを求めていたと思われる。